

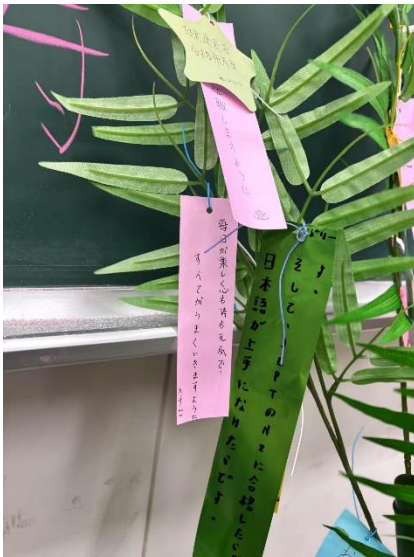
「はじめて」が詰まった一年間

大連理工大学
キチ

この作文を書く前に、思わずスマートフォンのアルバムを開いてしまいました。そこには、たくさんの笑顔と風景が残されていて、この一年間の思い出が一気によみがえってきました。お茶の水女子大学での交換留学は、まさに「はじめて」が詰まった、宝物のような一年間でした。

はじめて一人で生活し、自分で料理を作ってみました。正直に言うと、最初は全然おいしくできなかったけれど、それでも自分で作ったご飯を食べる時間は、少しずつ大人になっていく実感をくれました。

日本の四季を全て体感できたのも、忘れられない経験です。春には河津桜を見に熱海へ、夏は海上花火大会で空と海が一つになる美しさに感動し、秋には紅葉、冬には長野でスキー。まるで絵本の中にいるようでした。



初めての沖縄旅行では、人生初のダイビングにも挑戦しました。色とりどりの魚たちに囲まれ、水の中で「すごい！」と叫びそうになったほど。そして運良く、野生のクジラを見ることもできました。あの瞬間の感動は、言葉では言い表せません。

他にも、白骨温泉に入るために山奥まで行ったり、松本城を訪れたり、和室に泊まったり、伊豆の猫の博物館に行ったり…。その一つひとつが、日本文化を体で感じる特別な体験でした。

友達との思い出も、数えきれません。一緒に韓国アイドルを応援したり、いちご狩りをしたり、初めてのバースデーケーキを作ってくれたり、何度も一緒にご飯を食べて、たくさん笑いました。JALの工場見学で機長の服を着て写真を撮ったのも、ちょっとした夢のような体験でし

た。熱ヨガに挑戦した日々も、今ではいい思い出です。

この一年間で、自分がどれだけ成長できたのかを言葉にするのは難しいですが、間違いなく私の世界は広がりました。日本で出会った人々、風景、経験のすべてに感謝しています。

帰国を目前にして少し寂しい気持ちもありますが、この一年で得た思い出と友情は、これからの私の人生の中でずっと生き続けると思います。お茶の水女子大学で過ごしたこの一年間を、私は一生忘れません。